

父子学者―栃原助之進(知定、東皇)

栃原助之進(一八三二〜一八八二)は、父五郎助が江戸に再遊学した天保二(一八三一)年に生まれました。その当時、父五郎助はすでに儒家として名をなしていました。嘉永二(一八四九)年九月、父の病死後、助之進は二人扶持・諸役人段、同四(一八五二)年十一月には学問・詩文で褒賞、翌十二月には学資料(年額藩札二五〇目)をもらうほど上達していました。



栃原父子の墓(左は子・助之進、右は父・五郎助)

助之進は、安政元(一八五四)年二月「時習館」居寮生となり、学問・詩文の求精で再び褒賞、同五(一八五八)年九月には、林家や他藩の儒者との学問交流と研究のために、江戸遊学を命じられました。十一月には肥後藩の江戸龍口邸で、多年学問・詩文出精により褒賞、桜紋付の袴一具を下賜されています。

万延元(一八六〇)年正月には、昌平坂学問所の書生寮詩文係を命ぜられ、六月には江戸遊学中に「格合士席(士席相当)」に準じられ、さらに十月には書生居寮長(三人扶持)となっています。

文久元(一八六一)年七月、老母の病気で、八月に帰藩。十月には四人扶持・毎年米十俵を給付され、再び「時習館」居寮生になり、

詩文世話係を務め、「士席」に格上げされています。その後も昇進を続け、慶応三(一八六七)年七月「時習館」訓導当分、十二月「中小姓」となっています。

明治四(一八七一)年に「栃原塾」開塾、七年には「温故堂」の教師、西南戦争後の十一(一八七八)年には熊本師範学校教授、翌十二年創設の県立熊本中学校(現熊本高校の前身にあらず)初代校長などを歴任、十五(一八八二)年七月二十五日五十一歳で死去。栃原父子の墓は、黒髪立山西南麓にあります。

(文責) 社会教育指導員 堤 克彦

人権同和教育シリーズ 32 子どもたちの人権

七城中3年 歌丸愛依子

私はこの夏、市の事業として、一週間、朝から夕方まで保育園に手伝いをしに行くことになりました。そして私はこの体験を通して、子どもについて考えるようになりました。

最初は、受験生なのに一週間も保育園に行つて、勉強は大丈夫だろうか、本当に行つてなにか自分の役に立つのだろうか、と不安に思っていました。しかし保育実習は想像していたものより大変で、とても楽しかったし、たくさん学ぶことがあったのです。子どもたちがいつも私の所にかけて「おねえちゃん」と言われるのがたまらなく嬉しかったです。

一週間の実習も終わり、急に園児たちの顔が見られなくなると寂しくなり、心配で子どもたちが夢にでてるようになりました。そんな時、たまたま一人の園児と再会しました。その子は、私のことを覚えていてくれて、私をみるなり飛びついて来てくれました。私はその時、なぜだか分かりますが、初めて私も子どもたちにするべきことがあるんじゃないかと思つたのです。そして、世界の子どもた

ちの現状をもつと知りたくなりました。そこで私は、インターネットを使って世界の子どもたちの現状について調べることになりました。そうして分かったことは、3秒に1人貧困が原因で子どもたちが亡くなっていること、毎年400万人の赤ちゃんが生まれて一月たらずで死亡していること、7千7百万人の子どもたちが学校に通えていないことなどでした。これはすべて今の子どもたちの現状なのです。しかも、これは一部で、もっと厳しい現状で生活している子どもは、いったいどこにあるのでしょうか。

テレビやインターネット、本で調べていると、そこにいる子どもたちは、どんなに辛い現状の中でも純粋で真つすぐな目で頑張つて生きようとしていました。そんな姿を見ると、あんなにも必死で頑張っているのに、どうすることもできない無力な自分が情けなくなりました。

私が行つた保育園の子どもたちは、毎日労働に就いているわけではないし、貧困で亡くなる子はいません。しかし、最近の日本では、両親による虐待や育児放棄、さらには自分の子も殺してしまう悲しい事件が起きています。保育園の中でお母さ

んに会いたくて泣いている子をよく見かけました。みんな両親が大好きなのです。虐待を受けた子どももきっと両親が大好きだったでしょう。私は、どんな理由があろうと子どもたちにこんなことをするなんて絶対許せません。

人間は見た目がどうであれ、大人も子どもも女も男も、それぞれに個性をもった素晴らしい一人ひとりなのです。どんなに小さな子どもでも、生まれたばかりの赤ん坊も、おじいちゃんやおばあちゃん、みんな命の大きさは変わりません。そしてみんなが、幸せに生きる権利を持っているのです。

私が今できることは積極的に募金活動に参加すること、この現状をもつと多くの人に知ってもらつことぐらいです。自分ができることは本当に限られていきます。けれども現状を一刻も早くどうにかしなければなりません。子どもには未来があり、希望と夢を持っています。これからも私は、世界中の子どもたちのために自分ができることを考えていきたいです。



おわびと訂正

11月1日発行の人権啓発リーフレット「ふるさと」の中で、人権のひろば欄に掲載した人権標語作品の作者名に誤りがありました。おわびと訂正します。

菊池市立泗水東小学校 六年 誤(X) 的場 幸三くん
正(O) 的場 幸三くん

給油するときは目を離さない。屋外にあるタンクなどは防油堤を設置する。

- 菊池市役所環境課 ☎(25) 72117
- 菊池広域連合消防本部 北消防署 ☎(25) 3053
- 同消防署 ☎096(242) 1115

下水道工事完了に伴い、桜山五区のバス停が元の位置に戻ります

平成19年6月下旬から施工していましたが、泗水町永桜山二区・五区の下水道工事の完了に伴い、桜山五区のバス停が元の位置に戻ります。ご理解とご協力ありがとうございました。

問い合わせ先 下水道課 ☎(25) 7244



菊池市の地球温暖化防止活動推進員の石村さん(左)と山下さん(右)

熊本県では、地球温暖化防止活動の普及促進のため、市町村ごとに同推進員を委嘱しており、各推進員はそれぞれの地域で地球温暖化防止啓発活動を行っています。

菊池市では2人の推進員が委嘱されています。

イベントなどで、講演会や体験型環境学習会の出前講座を行なっていますので、お気軽に問い合わせください。

菊池市の地球温暖化防止活動推進員

石村サヨ子さん(限府)
山下臣子さん(住吉)

問い合わせ先
熊本県菊池地域振興局総務企画課 ☎(25) 4156
または 菊池市役所環境課 ☎(25) 7217

菊池川水質事故訓練

～迅速・的確な水質事故対応、被害拡大を防ぐために～

11月20日(火)に、菊池市他菊池川流域の各市町や国土交通省、熊本県などで構成する菊池川流域清流保全協議会が主催する水質事故対策訓練が山鹿市の岩野川でありました。



山鹿市の岩野川であった「菊池川水質事故訓練」

菊池川流域では水質事故が毎年15件以上発生しています。油類や化学物質などの流出によって川が汚染されることで、対策が遅れると川から取水している水道用水や、そこに住む魚などに大きな被害をもたらす場合があります。

今回の訓練は、こうした水質事故に対して迅速で効果的な対応を図るため実施したもので、油の流出を想定したオイルフェンスの展張訓練や斃死(へいし)魚の回収、水質検査実験などを実施し、今後の事故対策に万全を期すこととしました。

七城町地区の公共下水道事業分担金の額が変わります

市民の皆さんが下水道を利用いただくにあたり、下水道整備事業費の一部を負担いただく、公共下水道事業分担金の額が、平成20年4月1日より七城町地区で変更になります。

同地区では、合併後の経過措置として分担金の額を12万円としていましたが、措置期間が平成20年3月末日をもって終了となることに伴い、4月1日申請分より正規の分担金の額14万円になります。

なお、七城町地区以外の地区では、金額の変更はありません。

今後も公共下水道事業分担金の趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願い致します。

問い合わせ先 下水道課 ☎(25) 7244